

## 第3回上牧町総合計画等審議会 会議録

【日 時】令和3年8月27日（金曜日） 開始9：30 ～ 終了12：00

【出席者】21名（中山会長は大学の試験対応のためWEBでの参加）

【欠席者】6名（有江委員、岩井委員、鐵東委員、平塚委員、堀川委員、松井委員）

【傍聴人】0名

【事務局】町職員：6名、コンサル：3名

### 1. 開会

（事務局挨拶）

### 2. 議題

#### （1）基本計画（政策「行政・安心安全」）修正案について

事務局：（資料「上牧町第5次総合計画後期基本計画（政策『行政・安心安全』対応表）」について説明）

柴崎委員：1-1「行政運営」について、修正のなかった箇所である成果指標中の「部局横断的な会議の開催」はあくまで町内部の行動指標であるため、総合計画の指標としてはふさわしくないと思う。

1-7「防災」施策④について、大和川流域総合治水対策容量は上牧町域での値であると思われる。KPIとしての掲載にあたり、あくまで上牧町域での値であることを明記すべきであると考えている。

事務局：一つ目のご指摘については、KPIとして成果指標を設定できるものは極力設定するという方針であるため、他の指標設定で代替できる行動指標は削除を行っているが、この指標については代替がなかったため削除していない。

二つ目のご指摘に対しては担当課と協議を行う。

#### 2）基本計画（政策「都市環境」）案について

事務局：（政策「都市環境」 新旧対応表について説明）

（以下、グループに分かれて議論）

#### A グループ（3-1 交通体系、3-5 バリアフリー）

宮田委員：3-1「交通体系」について、施策③想定される取り組みに「自転車優先道路の整備」が追加されているが、県も自転車優先道路を積極的に整備している。県の計画との整合性、連携はどう考えているのか。

- 事務局： 現在、京奈和道や広陵町などで県による整備が進められているが、上牧町としてはまだ整備が進んでいない。
- 町としては安全に通じることができる空間を確保したいと考えており、既存の優先道路のメンテナンス及び片岡台や桜ヶ丘については自転車優先道路を整備していきたい。県との調整は出来ていないが、町としては取組を進めたい。一方で財源の確保は課題である。
- 宮田委員： つまり、県の考えと相違があるということか。
- 事務局： 相違があるのではなく、連携がまだ取れていない。しかし、広陵町で整備を進めている道路と接続して延長することができれば、上牧町においても連携が可能になる。県と連携すれば財源を確保しやすいため、今後の課題として調整を検討する。
- 宮田委員： 将来、事業を行う上で県の計画に速やかに接続できるようにする必要がある。
- 事務局： 総合計画が令和8年までの計画であり、現時点で具体的に県と調整は出来ていないため具体的なことは記載できないが、計画運用の中ではそのような視点をもって事業を進めていきたい。
- 青木委員： 記載内容に道路ばかりが目につくが、橋梁はどのように考えているのか。橋梁も生活道路の一部であり、古い橋梁のメンテナンスも必要である。
- 事務局： ライフラインの確保に係る橋梁について、変更案の施策①で記載している。
- 橋梁は毎年耐震工事を行っており、5年に1回橋梁の点検（10橋）を行っている。その取組について記載を考える。
- 青木委員： 服部台明星線とはどこからどこまでなのか。明星線の名前だけが残っているように感じる。
- 事務局： 一帯として認識していたため、担当課に確認を行う。
- 迫委員： 西名阪道路の南側通路について、現在側道の草が繁茂して水路が見えない状態である。自治会から町に伝え、町から道路管理者に草刈りを働きかけるべきではないか。
- 事務局： 定期的には草刈りを行っていると思われるが、町が直接手を出せない。担当課から声掛けは行っている。計画には入れ込めないが、担当課にはご意見として伝える。
- 石丸委員： 成果指標に「交差点交通安全対策（バリカー設置）」とあるが、バリカ

一設置とは何か。また「信号機の設置等」を追記できないか。

事務局： バリカーは防護柵のことであり、現状は20か所に設置が必要とのことだが、今後は定期点検しながら危険個所を把握し、しかるべき場所に随時設置する必要があるとの意図から、100%の成果指標とした。

黒松委員： コミュニティバスについて、3台になり利便性が上がると思ったが、逐一の乗り換えが高齢者の負担となっている。1台での巡回コースが出来ればと思う。

事務局： 担当課は増便するにあたり、効率的に周回できるコースやルートの配置を決定した。1台ですべての地域を回るのが難しく、効率的に回るためにルートが3台あるのだと思う。ご意見として承る。

事務局： 3-5「バリアフリー」は今回大きく改変を行った箇所である。「面的・一体的なバリアフリー化」を掲げてのハード面と共生社会の実現に向けた心のバリアフリーの推進を行うソフト面の両輪での取組内容であることをご理解いただきたい。

宮田委員： バリアフリーについて概念的には書いてある通りだと思うが、細かな部分の記載が不十分と感じる。

事務局： 総合計画であるので、詳細について記載しることができない。上牧町には高齢化の進行や地形など課題箇所が多いことから平成29年にバリアフリー基本構想を策定した。現状、上牧町は地形部分であるハード面の整備課題が多く、今年度整備基準を作成する。民間施設とも連携しながらできる範囲で取り組んでいきたい。ハード面について全てを整備するのは難しいため、町はバリアがあっても住民の意識の醸成で対応できるようソフト面を重視する方向性で動いている。具体的な対応策としては役場で職員対応のマニュアルを作成し意識を高めている。

宮田委員： 概念的には記載に異論はないが、バリアフリーは細かな部分が大事ではないのか。

事務局： 具体的な取組について、トイレ内の設備の周知などがある。公共施設個別施設計画にて取組を進めたい。

阪本委員： バリアフリーの重点整備地区が指定されており、黎明保育園から服部記念病院までの歩道の整備が行われている。公共施設に関しては、公共施設個別施設計画の記載をもとにバリアフリー整備の取組を行う。

宮田委員： 障害の持っている人や団体との協議は必要ではないか。

事務局： バリアフリー基本構想は関連団体にご意見をいただきながら策定し

- た。実際に運用するにあたっては、協力いただきながら取り組みたい。
- 黒松委員： バリアフリーに関する研修会を、リモートでも構わないので、一般町民向けに開催できないか。
- 事務局： 職員向けに研修を実施したが、町民向けのものではできていない。このような状況で集まっての開催は難しいが、将来的な実施を検討する。
- 迫委員： 西名阪南側道路は歩道が無く危険である。水路に蓋をする、側道のラインを引くなどの安全対策が必要だと思う。
- 事務局： 安全に利用できることを意識することが必要である。「交通環境の改善」のような形で計画に記載できるか検討する。
- 石丸委員： 3-4「上水道・下水道」について、目指す姿に「安価で」を追記できないか。水道料金が上がるが、一定の収益を上げているので少しでも住民に還元ができるとよいと思う。施策の展開方向についても追記を検討できないか。
- 事務局： 目指す姿について変更予定はない。ご意見をどこまで反映できるかは持ち帰って検討する。
- 宮田委員： 都市環境を考えるうえで景観や災害対策の視点から電線を地中化できないか。総合計画に記載できるかは任せるが、どこかで議論してほしい。
- 事務局： 景観に関しては「景観緑化」の施策がある。また、3-3「住宅」に良好な住環境の取組の記載があり、ご指摘のあった内容をどこに盛り込むかは内部で検討する。
- 青木委員： 国際交流についてどのように考えているのか。
- 事務局： 現在、台湾との交流を行っている。現行計画には記載がないが、後期計画では追記が必要となるため、次回以降の検討テーマに入れ込む。
- 青木委員： 3-4「上水道・下水道」について、施策指標の「有収率」が100%を下回っているのはどういうことか。
- 事務局： 水道管から漏水しているということである。随時漏水調査を行っている。
- 阪本委員： 加えて、老朽化した水道管は更新が行われている。
- 黒松委員： SDGsのアイコンについて、3-5「バリアフリー」にジェンダー平等が含ま

まれることについてどのような理解をすればいいか。

事務局： 担当課からの提案である。女性の能力強化を関連付けたか、あるいは心のバリアフリーという視点から男女平等を関連付けたと考えられる。担当課に確認する。

宮田委員： 公共施設の耐震補強はどの程度進んでいるのか。  
道路橋梁の耐震化はどうか。

事務局： 学校と庁舎は耐震補強が完了している。集会所と公民館は一部未実施部分が残っている。道路橋梁については現在進行中である。

青木委員： 公民館の耐震診断は行うのか。

事務局： 個別の施設計画で検討を行っている。

#### B グループ (3-2 環境衛生、3-6 環境活動)

安中委員： 3-2「環境衛生」施策①について、5年や10年でゴミがどれくらい減ったという成果数値があれば考えやすい。

事務局： 担当課と検討を行う。また情報の開示がされているかもしれないので確認を行う。

大杉委員： 施策①について、家庭の負担が増えるため、家庭に入るゴミの入りを減らすような、例えば事業者の包装を減らすなど事業者への働きかけをお願いしたい。また、分別をしやすくするための工夫が欲しい。

事務局： 現在可燃ゴミを減らすための啓発や周知を行なっている。

安中委員： ごみ分別の成果は上がっていると思う。加えて、プラスチック製品を紙製品に変えるような働きが必要だと思う。上牧町主導での製品宣伝や、製品アイデアの募集などしてみてもどうか。

事務局： 担当課や民間企業と連携し事業を検討したい。

竹島委員： 生ごみの有機肥料化への積極的な支援はなにか行っているか。

事務局： 担当課に確認する。

渡邊委員： 施策②について、高齢者が多くなるとごみ出しに遠くまで行けず、ごみステーションが増える。すると建設環境課の負担も増加するのではないか。

事務局： おっしゃる通り、ゆくゆくは負担となるだろうと考えられる。現在、地域対策課でボランティア的にゴミ出しの支援を実施している。

安中委員： 施策③について、静香苑は年間どれくらいの利用がないと維持ができないのか。基準などはあるのか。

- 事務局： 運用報告は毎月行われているが、維持のための基準は設定されているか不明である。
- 大杉委員： 施策③中の「効率的に稼働させます」は斎場に対しての記述としてよくわからない。妥当性を欠いた表現かと思う。
- 竹島委員： 作業効率という意味合いでよろしいか。
- 事務局： 担当課へ確認し、表現の検討を行う。
- 大杉委員： SDGs の 14 番（海洋と海洋資源の保全）は、敢えて入れる必要はないと考える。
- 東委員： 川を通じてプラスチックが流れるので、海のない奈良県においても重要ではないか。
- 竹島委員： 3-6「環境活動」について街路樹が過剰に成長しているところや、下草が生えて草刈りが追いついていないところがあるので危険である。
- 事務局： 総合計画の中にどれだけ記載できるかは不明瞭だが、担当課とともに検討を行う。
- 渡邊委員： 施策②について、以前イノシシなどが出てきて大騒ぎになっていたが、この項目に該当するのか。
- 事務局： 第4節「農業」に鳥獣被害として記載することを検討する。
- 安中委員： イノシシが出た時は猟銃を持っている町民が対処を行っているようだ。
- 渡邊委員： 町が有害鳥獣への取組を行うべきではないか。
- 事務局： 対策として、ワナ猟も含めて対応を行っている。
- 安中委員： 施策③について、滝川で子どもたちが潜って遊んでいる。見るからに汚いので、札などを立てて水質のことなど伝えてはどうか。
- 事務局： 川には入れないことになっているので、対策を検討中である。
- 竹島委員： 空き家、空き地の雑草が繁茂しており対策が必要である。
- 事務局： 通知は行っているが、空き家・空き地については従っていただけないことが多い。

#### C グループ（3-3 住宅、3-4 上水道・下水道）

- 遠山委員： 現状と課題について、「ストックマネジメントを推進する必要がある」とあるが、「既存建物の有効活用」のような表現の方が一般の人には理

解できるのではないか。

また、3-3「住宅」施策①に「県の開発指導要綱に則り、」とあるが、上牧町にも開発指導要綱は存在するので記載すべきではないか。

事務局： 開発指導要綱について、担当課と調整を行う。

遠山委員： 施策①想定される取り組みに地籍調査の実施とあるが、登記簿と実際の宅地面積に齟齬があることが多い農村部ならいざ知らず、住宅地の多い上牧において良好な住環境に結びつくのか。

事務局： 検討を行う。地籍調査は内部でも議論になった項目であるが、他市町村の事例を鑑みて入れ込んでいる。

柴崎委員： 地籍調査について、区域を確定しないと用地の売買が進まないという背景から入れ込んだのではないか。

柴崎委員： 指標「町営住宅管理戸数 380 戸」について、これは戸数を減らして適切に維持管理をしようということなのか、指標の意味することがよくわからない。

遠山委員： 長寿命化計画における除却を反映しているのではないか。

柴崎委員： 施策④「UR 住宅の活用及び入居促進」について、現状の入居数および具体的な取組はあるか。

事務局： 詳しくは把握できていないが、企画財政課の担当である。  
前期計画ではファミリー層の入居を考えていたが具体的な取組が進まなかった。それを受けて、後期計画ではあらゆる世代の方に目を向けてもらおうという方向性になっている。

向井委員： 増やす方向性なら、成果指標は 10%増といった指標が適切ではないか。また、人数よりも世帯数のほうが適切ではないか。

柴崎委員： 現状どれくらいの人数の居住があるかを知りたい。また、人数での指標はファミリー居住と独居の差を考慮していないように思う。

遠山委員： さらに、現状の空き家や居住世帯などのバックデータが欲しい。

事務局： 入居率の掲載を考えている。

暁委員： 若い人が町全体で減っているなかで、住宅環境だけではない町の施策が必要だと思う。町主催の婚活イベントを頑張っているのも、そこからのカップルに優先的に住んでもらうなどができるのではないか。

事務局： 総合計画の中にどれだけ記載できるかはわからないが、いただいたご意見をもとに検討する。

手嶋委員： 現在の水洗化率はどれくらいか。

- 事務局： 令和2年で96.3%となっている。
- 手嶋委員： 汲み取りのところは処理をどうしているか心配である。
- 向井委員： 排水溝に生活用水を直流ししているところはあるのが気になる。
- 事務局： 町から水洗化の働きかけを行っているが現状改善がみられない。環境保全の項目となるかと思う。
- 辻本委員： 雨水が排水溝に流れていない道路がある。下水が上がってきている時があるため心配である。
- 柴崎委員： ゲリラ豪雨などで問題になりうるため災害時の施策が必要だと思う。道路の項目に割り当てられるのかもしれないが。
- 事務局： 雨水対策をどこに位置付けるかはお答えできないが、ゲリラ豪雨などの発生を見据えて検討を行う。
- 辻本委員： 水道代が周辺地域より現状高いことに不満を抱いている町民が多い。若年層の流入を見込むならコスト削減に努めるべきではないか。
- 遠山委員： 広域水道一本化により水道代が県内で統一される方針があることは、詳しく記載すべきだと思う。  
先ほどのストックマネジメントや有収率など町民になじみがない用語などがあるので、解説コーナーを設けてはどうか。
- 事務局： 検討を行う。
- 遠山委員： 下水道管の調査が進行中だが、上牧町は道が多く進行が遅い。調査に優先順位をつけ、早期完了を見据えて取り組んでほしい。
- 柴崎委員： 現状と課題について、現行計画では「本町の上水道の配水施設は比較的新しい施設であり」と記載されているが、変更案では「創設より約50年が経過し、老朽化が深刻になっており、」とある。計画を見比べることはないと思うが、5年しか経過していないことを考えると不自然に思う。

#### とりまとめ（全体）

- 柴崎委員： 3-1「交通体系」施策④中に「幅員が狭あいだで通過交通の多い道路については、歩道の設置を要請します。」という文面がある。「進めます」といった書きぶりでないのは、国道・県道を対象として国や県に要請するからという認識でよろしいか。
- 事務局： その通り、国道・県道を想定している。しかし、町道にも狭あいだな部分



はあると考えられるので、ご指摘をもとに担当課と再検討を行う。

中山委員長： 十分に議論に参加できていないため、改めて本日の議論を伺ったうえで事務局に意見を伝える。

鶴谷副委員長： 3-1「交通体系」について、コミュニティバスについては町が積極的に取り組んでいる様子が伺える。一方で、町外への路線バス（奈良交通）については、取組に上牧町地域公共交通会議があるが、以前の計画にも同じことが書かれている。また、変更案に「路線バス」の記載が少なくなっているように思う。町民アンケートを見てもバスは重要な要素であるので、会議の開催だけではない具体的な取組の提示が求められる。また、3-3「住宅」の成果指標について、町営住宅の管理戸数、空き家・空き地バンク等登録件数、UR住宅における年間転入者数の数値について、算出根拠や方向性が読み取れない。

### 3. その他

- ・ 第4回審議会の日程について
- ・ 意見シートの提出について

### 4. 閉会